



九州フィナンシャルグループ

九州フィナンシャルグループがお届けする、九州のヒト、コト、モノの今。

九州FG

magazine

九州FGマガジン

VOL.2

ご自由にお持ち帰り
ください



うるおいある未来のために。
肥後銀行



はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行



九州FG証券

Landscape of people in Kyushu

九州人の風景

まちを、ひとを、元気にする

私たちのふるさとは、地方創生に向けて
尽力している人たちがいます。
今回は地域を支える
4つの取り組みをご紹介します。

INDEX

- 九州人の風景…………… P2
 - 三愛観光株式会社…………… P3
 - 株式会社本坊商店…………… P4
 - 熊本ワインファーム株式会社…… P5
 - 鹿児島オリーブ株式会社…………… P6
- 金融のプロたちの横顔…………… P7
- 和水町が生んだ「日本マラソンの父」
～金栗四三～…………… P9
- 日本の近代化、その先駆けを訪ねて
～鹿児島 尚古集成館～…………… P11
- 九州フィナンシャルグループトピックス P13
- 肥後銀行トピックス…………… P15
- 鹿児島銀行トピックス…………… P16
- 肥後銀行女子駅伝部×鹿児島銀行陸上部 P17
- 九州FG証券トピックス…………… P18

鹿児島ブランドの魅力を香港へ展開

「株式会社本坊商店」は、香港最大の食品会社
四洲集団と設立した現地法人「FS本坊」を通じ、
鹿児島の生鮮・加工食品の輸出版売を始めました。
鹿児島銀行は、鹿児島県内発の輸送ルート
を提案するなど、地方創生への取り組みを
後押ししています。

香港は、中国へのゲートウェイというだけでなく、関税や消費税が
なくビジネスの側面で非常に魅力的です。香港の皆様が、鹿児島の
多彩な食の魅力に気づくきっかけになればうれしいですね。

鹿児島銀行 地域支援部国際ビジネス推進室 室長 久保敏也



九州人の
風景

鹿児島



豊かな大地と海に囲まれ、おいしい山海の幸に恵まれ
た鹿児島県。県内の加工食品や生鮮品の香港での販路拡
大を目指すFS本坊の取り組みが、注目を集めています。
鹿児島県では、これまでも香港で鹿児島の物産展などを
行ってきたものの、なかなか県産品の魅力が伝わらない
ことが課題となっていました。そのような中、2018年
8月に設立された香港の現地法人FS本坊は、四洲集団
の催事チームに委託し、県産の青果や畜産品、黒酢、ラー
メン、調味料など、県内企業31社、約1000点の商品を、
継続的に催事販売することを決定。同年11月に試験販売
として香港の商業施設「City Walk 2」などに
「四洲市場×鹿児島」のポップアップストアを設置し、
好評を得ました。2019年夏に本格稼働し、香港全土の
催事で鹿児島県産品が販売される予定です。

本坊商店企画部の和田康佑さんは「ポップアップストア
には、香港のバイヤーさんなども来られており、鹿児島県産品への興味の高
さがうかがえました。中国にも広くネットワークを持つ四洲集団と組むこと
で、香港を足がかりに中国の皆さんに鹿児島県産品の良さを知ってもらいたい
ですね」と意気込んでいます。

鹿児島からの商品輸送は、①川内港からの船便、②鹿児島空港から韓国を経
由する飛行機便として③谷山港から沖縄まで船で運び、沖縄からは国の補助
で運賃が無料となる航空便の3つのルートを併用。九州内からの食品輸出は、
福岡からのルートが一般的ですが、あえて鹿児島県からの輸出を提案した鹿児
島銀行地域支援部国際ビジネス推進室長の久保敏也は、「これまで鹿児島から
の青果輸出は費用面などの問題から進んでいませんでした。鹿児島から商品を出
すことで、地方創生の高まりにつながればうれしい」と話します。

「商品を出品した企業さんの中には、新たに商品開発へ取り組むなどの動き
も生まれています。魅力ある商品をしつかり集めて、よさを伝えていきたい」と
和田さん。「KAGOSHIMABRAND」が世界共通語になる日を夢見て、
邁進しています。

阿蘇くじゅう国立公園の絶景を生かし 新たなツーリズムスタイルを確立

「三愛観光株式会社」は広大な緑のパノラマが広がる
阿蘇くじゅう国立公園の中心でホテルとレストハウスを
運営しています。
肥後銀行は、熊本地震からの創造的復興を目指す
阿蘇地域の魅力向上を目指して同社とともに様々な
観光振興に取り組んでいます。

熊本でラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権が
開催されることもあり、今後はインバウンドの受け入れ態勢強化が
課題です。投資対効果を測りながらサポートすることで、阿蘇は
九州観光の核になると期待しています。

三愛高原ホテル 副支配人 亀山英司（肥後銀行より出向）



九州人の
風景

肥後



広大な緑のパノラマが広がる阿蘇くじゅう国立公園。
同国立公園内にある「三愛高原ホテル」と「三愛レス
トハウス」を運営する三愛観光は、熊本地震でホテル
西棟が全壊するなどの被害を受けました。

インバウンドに人気の黒川温泉にほど近く、湯布
院温泉や別府温泉へも好アクセスである同施設は、
観光拠点としての魅力が高く、さまざまな可能性が
見込まれることから、2017年12月、「くまもと未来
創生ファンド（※）」からの出資を受け、被災施設の
復旧に着手しました。2018年10月には、全壊した
「三愛観光ホテル西棟」をリニューアルオープン。そ
して、11月に開催された、阿蘇地域の「食・観光・体験」
の魅力を発信するイベント「阿蘇地域復興フェア
in 三愛」では、「三愛レストハウス」が主会場となる
など、被災した施設の復旧にとどまらず、阿蘇地域全
体の活性化と創造的復興の拠点を目指し、復興の歩みを加速しています。

肥後銀行から出向し、現在は三愛高原ホテル副支配人として経営に携
わる亀山英司は、「肥後銀行は熊本県と共同出資した「くまもとDMC」を
設立し、ツアー造成などアクティビティを創出しています。国立公園の自
然美と熊本県大分を結ぶ地利を生かし、これまで主流だった観光拠点を
周遊するツーリズムから転換し、アクティビティを重視した欧米型長期
滞在リゾートとして新たな魅力を発信する構想も生まれています」と今
後の展望を見据えています。

ホテルとレストハウスを経営する三愛観光の杉本真一社長も「例えば、
広大な8万坪の敷地を生かしたセグウェイ体験やドローン撮影会。また
世界のライダーが一度は走行したいと憧れるミルクロードや、やまなみ
ハイウェイを武器に、バイク用品の高級ブランド店を誘致するなど、バイ
クの聖地」としても阿蘇を盛り上げたい」と力を込め、阿蘇地域の新たな
魅力発信を目指しています。

※「くまもと未来創生ファンド（熊本未来創生投資事業有限責任組合）」

肥後銀行、鹿児島銀行、中小企業基盤整備機構、熊本未来創生キャピタルが共同で設立・出資したファンド。

平成28年熊本地震で被害を受けた企業の復旧・復興を支援することを目的としています。

「日置オリーブ」を新しい特産品へ

鹿児島銀行は日置市と提携し、
共同で「鹿児島オリーブ株式会社」を設立。
日置産オリーブの栽培管理、商品化、
販売などを行っています。
まさに官民一体となって
地域の6次化産業を推進する
取り組みが注目を集めています。

オリーブ事業はまだ始まったばかり。日置市の新たな産業として
経済の活性化につながるよう、支援していきたいですね。

鹿児島銀行 地域支援部地域開発室 副調査役 熊迫悠平



九州人の風景

鹿児島

鹿児島



薩摩半島のほぼ中央に位置し、日本三大砂丘の一つ、
吹上浜と東シナ海に面する鹿児島県日置市。冬でも温暖
な風が吹く日置市の高台に鹿児島オリーブが所有する
オリーブ畑があります。鹿児島オリーブ立ち上げのきっか
けは、7年前にさかのぼります。2012年1月、日置市は
大手半導体工場の撤退表明を受け、約500名の雇用が
失われるという危機的状況に陥っていました。そのような
中、鹿児島銀行は、地域活性化や産業振興を官民で推進す
るため、同年5月に日置市と包括的業務協力協定を締結。
同年9月、日置市はオリーブの6次産業化を目指す「日置
市オリーブ構想」を策定しました。「健康ブームにより、
オリーブオイルの需要は増加しています。またオリーブは
加工が必要で、雇用を生む産業としての将来性が見込める
ことから、当行からオリーブの6次産業化をご提案しま
した」と話すのは、鹿児島銀行地域支援部の熊迫悠平。

日置市は2013年より本格的にオリーブの栽培を開始。15品種のオリーブ
1,000本を植樹し、実証栽培を進めています。一方鹿児島銀行は、行員2人
をイタリアとスペインに約2ヶ月派遣し、収穫から加工まですべての工程を
体験させるなど、入念な準備を進めました。2015年、日置市は市民への苗木
購入の助成や栽培指導を開始。「みかんの産地として知られたこの地は、みかん
畑の荒廃が地域の課題でした。農家さんからは、荒れ地にオリーブを植える
ことで畑が生き返ったとの声が聞かれます」と鹿児島オリーブの神野茂さん。
2017年12月には搾油機能を備えた日置工場をオープンし、一貫生産体
制を確立。2019年1月、初めて日置産のオリーブオイルが商品化されま
した。「2018年は前年の約10倍の932キロのオリーブが収穫され、農家
の皆さんも手応えを感じています」と鹿児島オリーブの鶴田泰政さん。オ
リーブ専門店「Vigore（ビゴレ）」やオンラインショップでの販売、さらに
新商品の開発などにも力を注ぐ鹿児島オリーブ。将来的にはオリーブ観光農園
の設置を目指し、ブランド構築と雇用創出への一歩を踏み出しました。

菊鹿産ブドウを使った ワイン造り支援で地方創生を

「熊本ワインファーム株式会社」はブドウの生産からワインの醸造、
物産館やレストランなど
九州随一の多機能型ワイナリー「菊鹿ワイナリー」を運営しています。
肥後銀行は、ファンドを通じた支援など
同社の農業を起点とした地方創生への取り組みを後押ししています。

私自身が菊鹿ワインの大ファン。生産体制が整ったことで、このお
いしさをたくさんの人に知ってもらうだけでなく、新たな観光拠点
となることを期待しています。

肥後銀行 地域振興部地方創生戦略室 調査役代理 森裕紀



九州人の風景

肥後



熊本県北部に位置し、豊かな自然に囲まれた山鹿市
菊鹿町。この地に2018年12月にオープンしたのが、
熊本ワインファームと山鹿市が協力して運営する「菊
鹿ワイナリー」です。ワイナリー内には1.5ヘクタ
ルのブドウ園をはじめ、ワイン醸造所、物産館やレス
ランなどが併設されており、九州随一の多機能型ワイ
ナリーとして県内外から多くの人が集まります。
熊本ワインファームの親会社である「熊本ワイン」は
1998年創業。同社の主力ワインである菊鹿産ブドウ
を100%使った「菊鹿」を主力商品としてワイン製造
に取り組み、「菊鹿ナイト・ハーベスト2008」が「ジャ
パン・ワイン・チャレンジ2009」において、最優秀賞
新世界白ワイントロフィーを受賞するなど、全国的に
高い評価を得ています。

品質向上に向けた取り組みにおいては大変な苦勞
がありました。温暖で雨の多い熊本では、ワイン用のブドウ栽培は難しいと
言われていたこともあり、生産に協力する農家は当初3軒しかありません
でしたが、同社・山鹿市・ブドウ農家一丸となり、土壌作りや栽培技術の研究
と努力を重ねた結果、凝縮感のある質の良いブドウが収穫できるよう
になりました。現在では31軒まで拡大しています。
しかし、「菊鹿は、生産本数が限られており、「おいしい」とうわさでは聞くけど、
飲んだことがない」との声が上がるとのワインです。熊本ワインファームの幸山
賢一社長は、「菊鹿」を通じて多くの方の食生活を豊かにしたい」との想いから、
自らブドウの栽培にも取り組む「菊鹿ワイナリー」の開園を決意されました。肥後
銀行は、農業を起点とした地方創生に資する「菊鹿ワイナリー」事業の趣旨に賛
同し、「KFGアグリファンド（※）」を通じて支援しています。
幸山社長は「生産技術の確立や熟成の難しさなどまだまだ課題がありますが、
日本を代表するような新たなワインも生み出していきたい」と目を輝かせます。

※「KFGアグリファンド（KFGアグリ投資事業有限責任組合）」
肥後銀行・鹿児島銀行・肥後キャピタル・鹿児島ディベロップメント・日本政策金融公庫が共同で設立・出資したファンド。
九州地域の農業法人に対する規模拡大や財務体質強化を目的としています。



金融のプロたちの
横顔

鹿児島銀行 鴨池支店

支店長代理 今村達哉 (2003年入行)
法人のお客様の資金運用のご相談から本部と連携したビジネスマッチング支援等、お取引先が抱える課題解決に向け、取り組んでいます。
地方の人口減少や経済縮小が懸念される中、情報収集を欠かさないう心がけています。お客様の成長・発展に貢献できるよう「お客様目線」を第一に、地域貢献できる喜びと責任を感じながら日々の職務に臨んでいます。
休日は趣味の磯釣りや家族との物産館めぐりなどを楽しんでいます。



お客様に寄り添い、きめ細やかなサービスを行います。



金融のプロたちの
横顔

肥後銀行 本店営業部個人営業グループ

鬼丸奈津子 (2012年入行)
個人のお客様を中心に、ライフプランに合わせた金融商品サービスの提供や、お取引先の従業員様向けに金融セミナーを実施しています。
たくさんのお客様に出会えることは、私の人生の糧にもなり「ありがとう」と感謝の言葉をいただいたときは、よりやりがいを感じます。「お金が動くときはお客様の想いが形になるとき」だと考え、常に最適の提案ができるよう資格取得など自己研鑽にも励んでいます。
余暇時間はヨガでリフレッシュ！
3か月前に結婚し、料理も特訓中です！

金融のプロたちの
横顔

九州FG証券 熊本支店

マネージャー 田中直美 (1998年入行)
九州FG証券の開業当初から、「安定した将来を支えるお手伝いをしたい」という強い思いを持って、個人のお客様や企業のオーナー様の資産運用のご相談業務に携わってきました。お客様お一人ひとりの人生に深く関わる仕事ですので、もちろん緊張感もありますが、その分、やりがいを感じています。二児の母として家事や育児にも全力投球中。最近、リフレッシュのためランニングを始めました。フルマラソンにも挑戦したいです！





金栗四三生家記念館。200年以上たった生家が、今も現存している（和水町教育委員会蔵）



金栗四三の幼少期のエピソードや金栗家についてなど、パネルや映像で展示。金栗四三の少年時代をモデルとする同町のマスコットキャラクター「なごみん」もリラックス（和水町教育委員会蔵）



金栗四三ミュージアム。学校の社会科見学などにもオススメ（和水町教育委員会蔵）

金栗四三のスピリットを感じる生家

200年ほど前に建てられた金栗四三の生家は、今も和水町に残り、一般公開されています。堂々たる骨格の屋敷の玄関を入ると広々とした土間があり、その横に高等小学校を卒業するまでの8年間を過ごした「学校部屋」と呼ばれる四三専用の部屋があります。二畳敷きほどの小さい板張りの部屋で、四三は声を張り上げて読み方をしたそうです。四三が通った玉名北高等小学校はここから約6キロ先にあり、毎日走って往復していたというから驚きです。

等身大の金栗四三を体感できるミュージアム

2019年1月11日、三加和温泉ふさと交流センターに、「金栗四三ミュージアム」がオープンしました。実際に四三が着用したユニフォームやマラソン足袋など、ゆかりの品や写真が展示されるほか、四三が創設した箱根駅伝の歴史なども紹介されており、晩年まで日本のスポーツ振興に力を尽くし、「日本マラソンの父」と称された四三の生涯とそのスピリットを体感することができます。

（2020年1月13日まで）

金栗四三年表

- 1891（明治24年）熊本県玉名郡春富村大字中林（現・和水町）で生まれる
- 1910（明治43年）東京高等師範学校（現・筑波大学）入学
- 1912（明治45年）第5回オリンピックストックホルム大会出場
- 1946（昭和21年）熊本県体育会（現・熊本県体育協会）創設、初代会長就任
- 1948（昭和23年）熊本県初代教育委員長就任
- 1983（昭和58年）死去（享年92歳）



1911年に行われたストックホルムオリンピックの国内予選会で優勝した時の金栗四三（和水町教育委員会蔵）

オリンピックマラソン競技「世界最長記録」を持つ金栗四三

1911年、オリンピック国内予選会に出場し、当時の世界記録を27分も縮める2時間32分45秒という好成績で見事優勝した四三は、翌年第5回オリンピックストックホルム大会に出場しました。大会当日、最高気温40℃という記録的暑さだったこともあり、26km過ぎで倒れてしまいました。四三は失意のうちに帰国しましたが、その後スウェーデンでは、「消えた日本人がいる」としばらく語り草となっていたそうです。月日は流れ、1967年3月、「ストックホルム大会55周年記念式典」への招待状が四三の元に届きました。55年ぶりにスウェーデンの地に降り立った四三は、ゴール100m手前から走り出し、満面の笑みでゴールテープを切りました。その瞬間、「日本の金栗四三選手がゴールインしました。タイムは、54年8か月6日5時間32分20秒3。これをもちまして第5回ストックホルムオリンピック大会はすべての競技を終了いたしました。」とアナウンスが流れました。粋な計らいにより、誰も破ることのできない世界最長記録を残したのです。

和水町が生んだ「日本マラソンの父」
箱根駅伝の創設や女子体育の振興などに尽力
かなくりしそう

2019年のNHK大河ドラマ「いだてん」東京オリムピック噺の主人公の一人である金栗四三は、古墳が点在する緑豊かな町・熊本県玉名郡和水町の出身です。1891年8月20日、8人兄弟の7番目として生まれた金栗四三。この地の造り酒屋を営んでいた父・信彦が43歳の時に生まれたため、四三と命名されました。

金栗四三ミュージアム

住所：熊本県玉名郡和水町大田黒623-1
TEL: 0968-34-4300
開館時間：9時～17時（最終受付16時30分）

金栗四三生家記念館

住所：熊本県玉名郡和水町中林546
TEL: 0968-34-3047
開館時間：9時～17時



仙巖園内にある旧集成館反射炉跡。海防の危機感により鉄製大砲を鑄造するために建造された。
薩摩藩は、外国人技術者の指導を受けることなく、オランダの技術本を見ながら自力で建造したというから驚きた。



国指定重要文化財「尚古集成館」。
旧集成館機械工場で、現在は、島津藩の歴史を紹介する博物館となっている。
2015年、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産としてユネスコ世界文化遺産に登録された。

日本の近代化、 その先駆けを訪ねて

— 鹿児島尚古集成館 —

時は、19世紀半ば。日本の南端に位置する薩摩には、西欧列強の艦船が出没するようになり、危機感を募らせた薩摩藩主島津斉興は、青銅砲の製造などに着手。領内沿岸部の要衝に砲台を設置するなどの防衛対策に務め、軍備の強化を進めました。1851年に藩主となった島津斉彬は、日本が西欧列強に植民地化されないためには、軍備の強化だけでなく、産業の育成を図り、日本を強く豊かな国に生まれ変わらせなければならないという考えを持っていました。

「大砲や軍艦だけでは日本は守れない。人々の暮らしが豊かになれば、人の和が生まれる。その人の和はどんな城郭より

日本を守るための礎となるだろう」

そう考えた斉彬は、実現の一步として鹿児島郊外の磯に「集成館」という工場群を創設しました。この地を拠点に、製鉄や造砲、紡績、そして輸出用の薩摩焼、薩摩切子などが生まれ、薩摩藩は日本最高水準の工業力・技術力を持つに至ったのです。

現存する日本最古の洋式工場

鹿児島市吉野町に今も残る「尚古集成館（本館）」は、1865年に船などの金属部品を加工・製造するために建てられた、日本に現存する最古の洋式工場です。2015年には「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界遺産に登録されました。現在は島津家の歴史や近代化事業を紹介する博物館として、江戸時代につくられた薩摩切子や、日本人が撮影した最古の銀板写真、工場として稼働していた当時の機械など、島津家伝来の資料を中心に約1万点が収蔵・展示されています。隣接する島津家別邸「仙巖園」は日本を代表する大名庭園で、雄大な桜島を望む庭園に加えお殿様が暮らした御殿も残り、鹿児島が歩んだ歴史や自然美が堪能できます。



尚古集成館・仙巖園
住 所：鹿児島市吉野町9700-1
T E L:099-247-1551
開園時間：8時30分～17時30分

尚古集成館に隣接する島津家別邸「仙巖園」から眺める桜島。
右下に見える石の灯籠は、鶴が羽を広げたように見えることから「鶴灯籠」と呼ばれ、28代斉彬がガス灯の実験を行ったと伝わる。



「尚古集成館」の内部。島津家にまつわる史料のほか薩摩焼や薩摩切子などの展示物を通じて島津800年の歴史をたどることができる。

TOPICS 2

環境省との 「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を 締結しました



締結の様子

2018年6月11日、九州フィナンシャルグループ・肥後銀行・鹿児島銀行と環境省は、国立公園の景観や魅力の発信に連携して取り組む「国立公園オフィシャルパートナーシップ」をそれぞれ締結しました。この協定は、環境省と企業・団体が相互に協力し、日本が世界に誇る国立公園の美しい景観と、国立公園に滞在する魅力を世界に向けて発信すること、国内外からの利用者の拡大を図り、地域活性化につなげることが狙いです。九州フィナンシャルグループを含め49団体が参加しており、2020年末までに、肥後銀行が「阿蘇くじゅう国立公園」、鹿児島銀行が「霧島錦江湾国立公園」の魅力高める取り組みをそれぞれ展開します。

阿蘇くじゅう国立公園への取り組み

- 環境・水質・草原保全に向けた棚田耕作、森林植樹、野焼きボランティア
- 畜産業振興のための阿蘇世界農業遺産基金への寄付
- 魅力発信スポーツイベントの実施
- WEBサイト「かせするもん」「おるとくまもと」での魅力発信
- 熊本県内の日本版DMO「くまもとDMC」と連携した着地型旅行商品の造成・販売および外国人観光客の受入環境整備の支援
- 新たな観光客を呼び込む施設整備の支援



阿蘇くじゅう国立公園



霧島錦江湾国立公園

出典：環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/>)

霧島錦江湾国立公園への取り組み

- 新たな観光客を呼び込む施設整備の支援
- 地域事業者等との協働による観光商品の開発
- 外国人観光客の受入環境整備の支援
- 環境保全に向けた植樹活動の実施
- 鹿児島銀行のプロモーションツールを活用した国立公園の情報発信

TOPICS 3

財務状況について お知らせします

詳しくはこちらをご覧ください

<https://www.kyushu-fg.co.jp/ir/kessan.html>



TOPICS 1

「サステナビリティ統括室」を 新設しました



※注1

SDGs:「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。2015年9月の国連サミットで採択された具体的行動指針。国連加盟193か国が2016～2030年の15年間で達成するために掲げた17のグローバル目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されている。

※注2

ESG:環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったもの。企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの観点が必要だという考え方が世界的に広まっており、投資の意思決定において、従来の財務情報だけを重視するのではなく、ESGの観点から判断する「ESG投資」が機関投資家の間で広がっている。

2018年10月、国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)※注1」および「環境・社会・ガバナンス(ESG)※注2」などの視点を取り入れ、地域の持続可能な経済成長と課題解決を図るため、九州フィナンシャルグループ経営企画部内に「サステナビリティ統括室」を新設しました。また、肥後銀行では経営企画部内に「サステナビリティ推進室」を、鹿児島銀行では自然部内に「ESG統括室」を設置しており、グループ一体で持続的成長に資する取り組みを推進しています。2019年2月には、全役職員が主体的にSDGsに取り組みむことを内外に示す「サステナビリティ宣言」を発表しました。

九州フィナンシャルグループ サステナビリティ宣言

私たち九州フィナンシャルグループは、
国連が定めた持続可能な開発目標であるSDGsの趣旨に賛同し、
全役職員が主体的に取り組むことを宣言します。

1. 持続可能な社会づくりへの取り組み

私たちは、環境にやさしい経営の実践を通じ、お客様や地域の皆様お一人おひとりが、将来にわたって幸せや満足を実感できる社会づくりに取り組みます。

2. 地域経済発展への取り組み

私たちは、地域総合金融グループの力を最大限に発揮し、お客様・地域の課題解決を支援することで、持続的な地域経済の発展に貢献します。

3. 普及・拡大への取り組み

私たちは、お客様や地域の皆様との対話を深め、地域全体が持続可能な社会となるように活動の輪を広げます。



九州フィナンシャルグループ
サステナビリティ担当メンバー

TOPICS 1

上村基宏頭取が『月刊 金融ジャーナル』
「2018年度ベストバンカー賞」を
受賞しました



鹿児島銀行頭取 上村基宏(左)と株式会社金融ジャーナル社 宮岸順一社長



贈呈された
「2018年度ベストバンカー賞」の
表彰盾

※ベストバンカー賞とは
2003年に『月刊 金融ジャーナル』(発行株式会社金融ジャーナル社)によって創設され、経営指標に加え、顧客の利便性向上や社会貢献などで卓越したリーダーシップを発揮した金融機関経営者を顕彰しています。毎年度1名が選出され、これまでに15名の地方銀行第一地方銀行の会長、頭取が表彰されています。

鹿児島銀行頭取の上村基宏が、地域の発展に貢献し、卓越したリーダーシップを発揮する金融機関経営者に贈られる「2018年度ベストバンカー賞」を受賞しました。2010年6月の頭取就任以来、独創的な経営判断で社会構造と金融環境の変化にいち早く対応するとともに、成長が期待される医薬・農業・観光分野に早くから着目。それら成長分野に経営資源を投下し、地域経済の発展に向けた積極的な取り組みを行っていることなどが評価されました。授賞式は2018年10月11日に「かぎん会館 with」(鹿児島市)で行われ、『月刊 金融ジャーナル』を発行する株式会社金融ジャーナル社の宮岸順一社長より表彰盾が贈られました。

TOPICS 1

2018年10月、行内放送局
「ひぎんNet-TV」開局！



肥後銀行 本店6階にある「うるおい未来スタジオ」



「Weeklyニュース」を週1回配信

2018年10月、肥後銀行は、本店6階に行内放送局「ひぎんNet-TV」を開局しました。従来の文書などを中心とした伝達手段に比べ、圧倒的な情報量をもつ映像を活用した情報伝達によりコミュニケーションを強化し、組織運営力を高めることを目的としています。
週1回、ニュース仕立ての番組「Weeklyニュース」で、通達の解説やマーケット情報のほか、行員のモチベーション向上につながる取り組みなどを、全店に配信。番組内で、お取引先の商品・サービスのご紹介や取材・インタビュー映像を取り上げることがあります。アナウンスから撮影・編集まで、全て肥後銀行員が担当しており、将来的にはお客様向けの配信なども行う予定です。



よだれかけなど
「しろどん」グッズが
入った「はじめてばこ」



「しろどん」からの
メッセージカードも
ついています



「スマイルベイビープロジェクト」に
協賛しています

鹿児島銀行は、「鹿児島に生まれた赤ちゃんをみんなでサポートしていこう」という目的のもとに発足した「スマイルベイビープロジェクト」に協賛しています。このプロジェクトでは、鹿児島県内で赤ちゃんが生まれたご家庭に、ステキな品々を詰め込んだ「はじめてばこ」をプレゼント。当行からはオリジナルキャラクター「しろどん」グッズを「はじめてばこ」に提供しており、鹿児島島の未来を担う赤ちゃんや子どもたちの健やかな成長を応援します。

TOPICS 2

阿蘇の食やアクティビティを満喫！
「阿蘇地域復興フェアin三愛」を開催しました



2018年11月10日、阿蘇郡南小国町の三愛レストハウス周辺において、「阿蘇地域復興フェアin三愛」が開催されました。このイベントは、阿蘇地域の創造的復興のために、肥後銀行と株式会社くまもとDMCの共催により開催されたものです。フェア当日は、阿蘇地域の自慢の逸品が集結したマルシェや、乗馬体験、サイクルアスレチックなど様々な企画が用意され、観光客や家族連れなど、多くの来場者でにぎわいました。



「開業1周年記念セミナー」を開催しました

2019年2月2日・3日の2日間にわたり、熊本・鹿児島それぞれの会場において、お客様向けに「開業1周年記念セミナー」を開催しました。

2018年1月の開業から、無事に1周年を迎えられたことに対する感謝の気持ちを伝えずるとともに、投資教育研究所の野尻哲史所長による「人生100年時代を生きるお金との向き合い方」、野村證券投資情報部の西澤隆部長による「2019年の投資環境」の2部構成で講演会を行いました。両日とも定員100名を超える多くのお客様にご参加いただきました。今後も、お客様のライフプラン設計や資産形成のお手伝いのため、営業員によるご相談業務に加え、セミナー等を通じて、有意義な情報発信に努めてまいります。



肥後銀行女子駅伝部・鹿児島銀行陸上部

“クイーンズ駅伝 in 宮城”に**初**のペア出場を実現

2018年11月25日に宮城県において開催された「第38回全日本実業団対抗女子駅伝競争大会（通称：クイーンズ駅伝）」に、肥後銀行女子駅伝部と鹿児島銀行陸上部が出場しました。

本大会では、予選会（通称：プリンセス駅伝、10月21日福岡県宗像市で開催）を突破した上位14チームを含む22チームが、6区間・42.195kmでタスキをつなぎ、熱戦を繰り広げました。

肥後銀行は総合17位（2時間21分37秒）、鹿児島銀行は総合21位（2時間23分04秒）と、いずれも過去最高タイムでゴールしました。



開業以来のあゆみ

2018.1	開業
2018.2	オンライントレードサービス開始
2018.4	本格営業開始
2018.6	預り資産残高100億円突破
2018.8	口座開設数1万件突破

2018年度中間決算

総資産：	34億円
販売額：	233億円
営業収益：	5億円



九州FG証券株式会社
代表取締役社長 西本純一

おかげさまで2019年1月をもちまして、開業1周年をむかえることができました。開業以来、多くのお客様さまにお取引いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

「これからを、あなたのとなりで。」というキャッチフレーズのもと、常にお客さまに寄り添い、お客さまの期待を超えるサービスを提供できるよう、これからも役職員一同全力を尽くしてまいります。

会社概要（2018年9月末現在）



九州フィナンシャルグループ

■本店所在地（登記上の住所）	鹿児島県鹿児島市金生町6番6号
■本社所在地（本社機能）	熊本県熊本市中央区練兵町1番地
■代表者	代表取締役会長 甲斐 隆博（肥後銀行 取締役会長） 代表取締役社長 上村 基宏（鹿児島銀行 取締役頭取）
■資本金	360億円

■設立日	平成27年10月1日
■上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 福岡証券取引所本則市場
■証券コード	7180



うるおいある未来のために。

■設立	大正14年7月25日
■資本金	181億円
■本店所在地	熊本県熊本市中央区練兵町1番地
■店舗数	123か店 本支店118・出張所4・ 海外駐在員事務所1
■従業員	2,264人



■設立	明治12年10月6日
■資本金	181億円
■本店所在地	鹿児島県鹿児島市金生町6番6号
■店舗数	152か店 本支店115・出張所13・代理店23・ 海外駐在員事務所1
■従業員	2,263人



■設立	平成29年6月1日
■資本金	30億円
■本店所在地	熊本県熊本市中央区紺屋町 1丁目13番地5
■店舗数	4か店 本支店4
■従業員	61人



Kyushu FG

九州フィナンシャルグループ

その他の詳しい情報は九州フィナンシャルグループホームページまで

九州フィナンシャルグループ

検索



<https://www.kyushu-fg.co.jp/>